

第3期飯田市中心市街地活性化基本計画策定の進捗について(中間報告)

1. 背景と目的

(1) これまでの取り組み

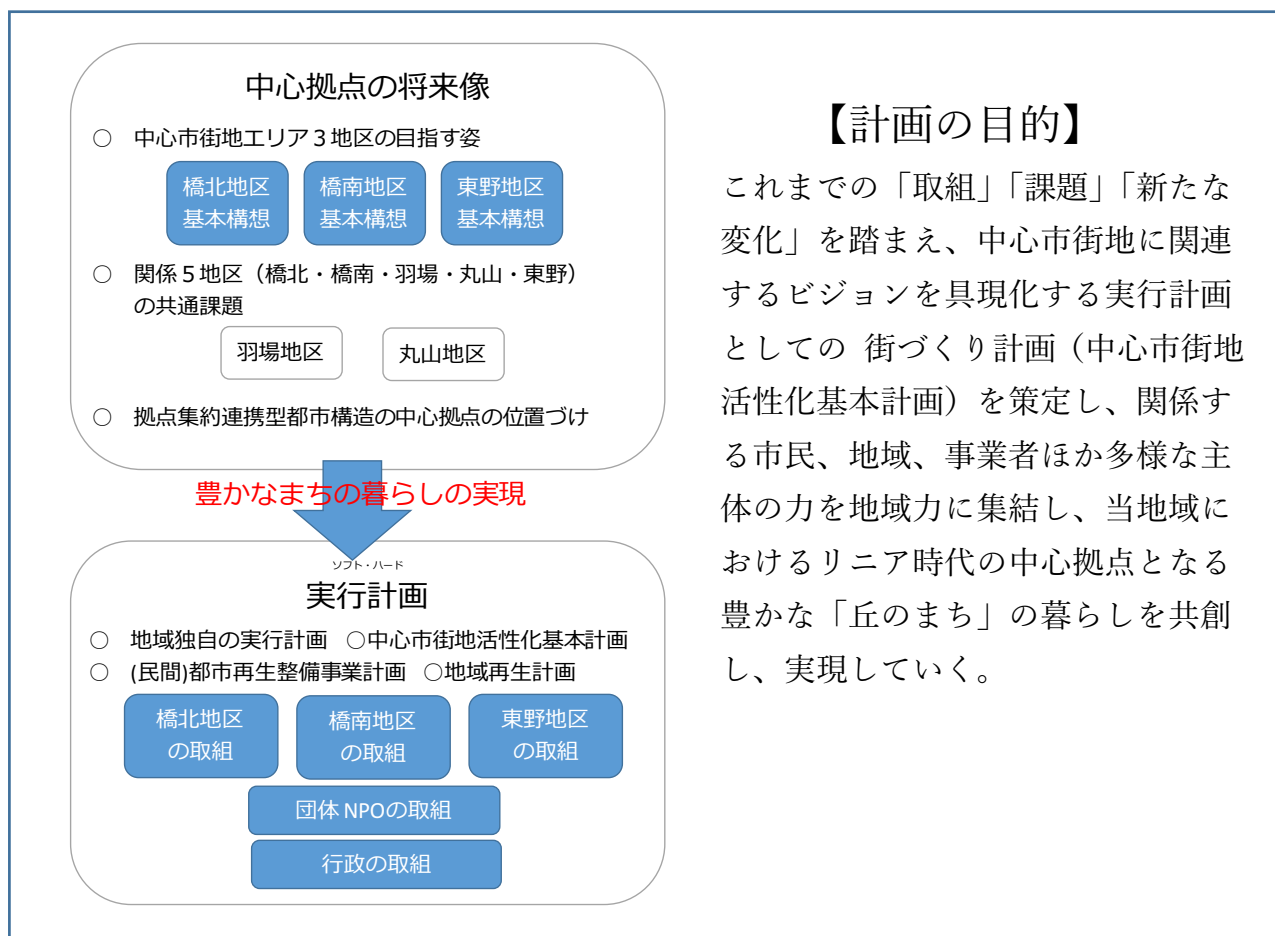
- ・第2期計画までの一定の成果（基盤整備40事業、ソフト21事業の充実等）
- ・りんご並木周辺の深化（動物園における入園者の増加、りんご並木再整備の完了）
- ・りんご並木歩行者天国等のイベントによる求心力の推進、りんご並木まちづくりネットワークを始めとする様々な担い手や助っ人の結集

(2) 積み残された課題

- ・続く市街地の人口減少、少子化・高齢化と地域力の衰退
（計画期間開始前年度（H26.1.1）9,404人、計画期間の直近（H30.1.1）8,853人）
- ・まちなかの商店街の高齢化と衰退。魅力低下を踏まえた人づくり、商品づくり
（H30.4.1 現在の高齢化率：橋北 40.4% 橋南 38.5% 東野 34.2%）
- ・恒常的な街の賑わい
（H29年度における平日の歩行者通行量：9,316人/日 対目標値 90.4%）

(3) 新たな変化

- ・中心市街地関連地区による将来像づくりの検討（橋北、橋南）と、具体的な取り組みの動きが開始（羽場、丸山、東野）。
- ・リニア長野県駅設置に向けた動きと拠点集約連携型都市構造における中心拠点の位置づけ。



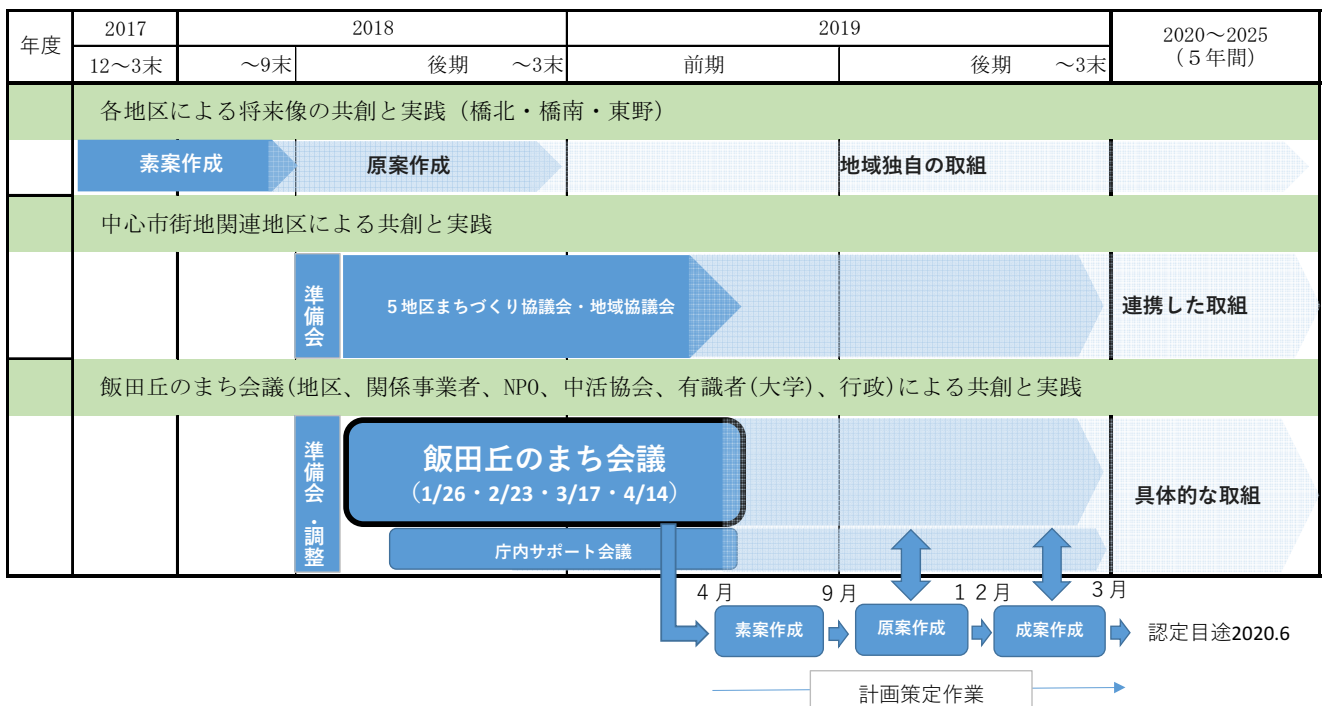
2. 基本的な考え方

- ・第3期計画は、「まちづくりは住民、事業者、関係機関が将来像を共有し、当事者意識を持って共創の場で策定し、実行していく」ことを大切に、様々な主体の参加・協力を得て、自主的・自立的な取り組みからなる実行計画とする。
- ・中心市街地の活性化、ひいてはリニア長野県駅設置に向けた中心拠点の活性化にも応じた取り組み施策を推進するものとする。
- ・策定作業は平成30年10月（2018.10）から2020.6月を目途とする。
- ・共創の場として取り組む「飯田丘のまち会議」において、様々な検討が行われた中で、合意が得られたものを位置付け、実行を第一としていく。なお、積み残した課題・案件については、方向付けされた時点で加えていく。
- ・計画期間は5年間とする。

3. 計画策定から取組への進め方

- 各地区における基本構想の策定と具体的な取組（橋北地区、橋南地区、東野地区）
- 中心市街地関連地区における共通課題の確認
- 地区、関係事業者、NPO、有識者、中活協会、行政によるまちづくりのプラットフォーム「飯田丘のまち会議」での検討
 - ※ 「飯田丘のまち会議」は中心拠点の将来像を共有し、さらに具現化するための実行計画を策定し、具体的な取組につなげていく。
 - ※ 実行計画の策定、実現に向け、市役所内に庁内サポート会議を設置し推進事業を検討。

【スケジュール】 令和元年9月13日時点



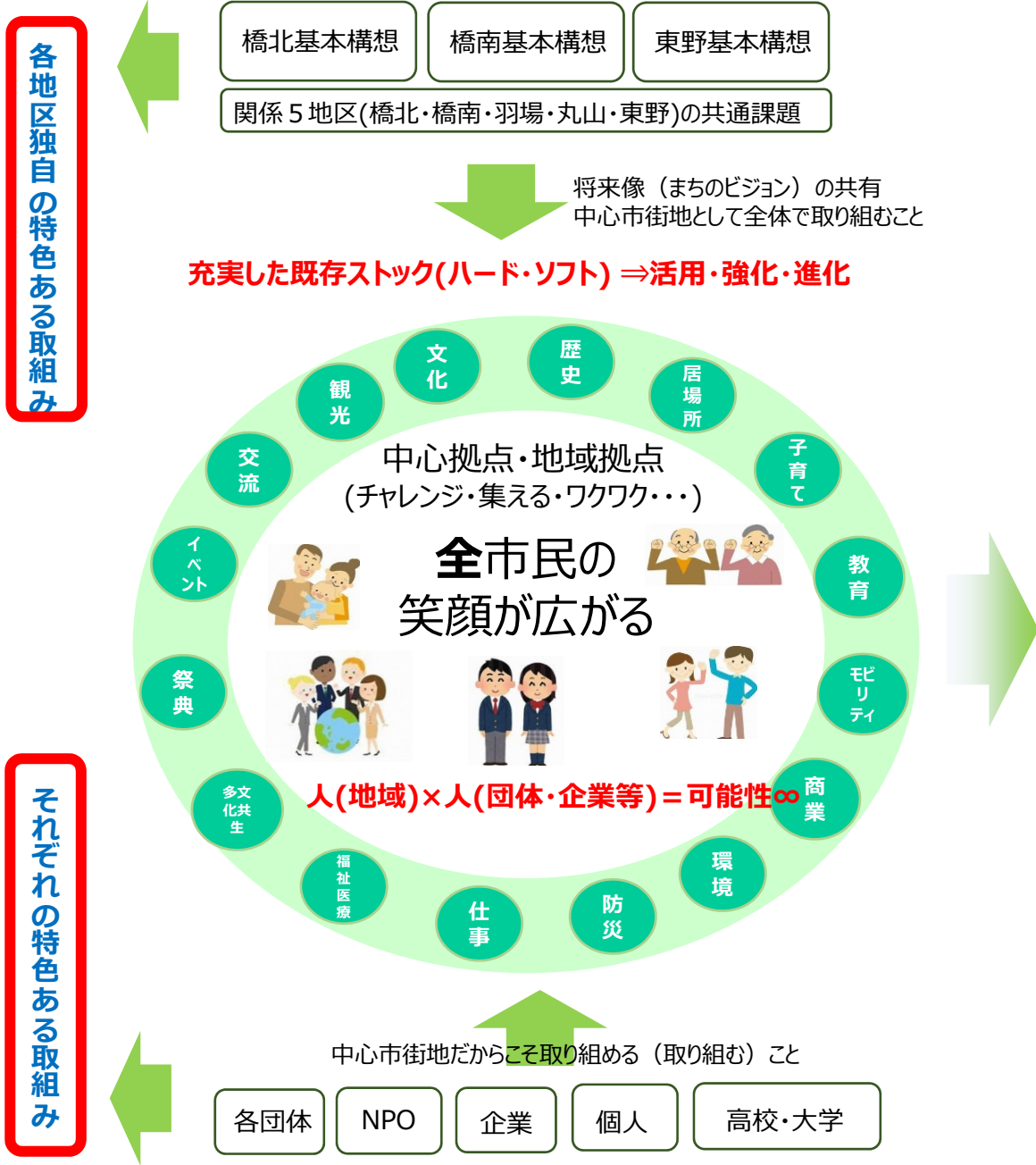
住民、企業、まちづくり団体等が街のイメージ・ビジョンを共有し実行する まちづくりのプラットフォーム

「飯田丘のまち会議」の整理

■あり方 (思い、何のために)

目的

- エリアとしての特殊性(中心性・拠点性)
- この地域だからこそやるべきことの検討
- ハレの場、顔として自分たちの取り組むこと



構成：47団体 メンバー70名

部会	テーマ
第1部会	住まいと暮らし
第2部会	ライフスタイル
第3部会	都市デザイン
第4部会	賑わいづくり
第5部会	都市機能

飯田丘のまちアクション2028

～みんなの10年実行計画（素案）～
（2019～2028）

○中心市街地3地区の基本構想の将来イメージ

橋北地区	橋南地区	東野地区
誰もが安心して暮らせる 春草を生んだ歴史と文化の香り 高い きらめくまち 橋北	中心市街地・橋南は 城下町 の 歴史や文化・ りんご並木 とともに 生き続ける	桜並木 を大切に、歴史と文化を 守る、人にやさしいまち・ 東野

○地区の基本構想からひろがる10年後（リニア時代）の「丘のまちの姿」

「みんなで創る みんなのステージ 丘のまち -集う・語り合う・表現する-」

○みんなの行動指針

「飯田らしい美しさ、居心地の良さ、暮らしやすさをリニア時代に私たちが創っていく」



○充実した既存ストックの活用

○人との繋がりやチャレンジによる**美しいまちづくり**

みんなのアクション

○各地区による事業の推進

橋北地区	橋南地区	東野地区
<ul style="list-style-type: none"> ☆空き家対策・活用、橋北空き家バンク ☆子育て支援、子どもたちの居場所づくり、子育てサロンの開設 ☆行事、イベント情報の発信、若者が活躍できる場・交流イベント、若者に向けた居住環境PR ☆男性の行事参加、健康意識づくりの向上 ☆まるごと博物館構想、歴史的建造物の保存とまちづくり整備活用、旧測候所の活用等 ☆野底川水系の活用、自然エネルギーの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ☆空き家・空き店舗を活用した起業支援、都市型集合住宅などの再開発、民間力を活用した街区形成 ☆若者、子育て世代を意識した交流促進、子育てに関わる仕組みづくり、子育て環境の整備 ☆JR飯田駅周辺の再開発 ☆定住と働く機能の環境整備（テレワーク・サテライトオフィス） ☆文化交流拠点のお宝マップの制作 ☆回遊性の創出・活用・整備（りんご並木・桜並木・中央公園・扇町公園・動物園・蔵・美術博物館・赤門等） 	<ul style="list-style-type: none"> ☆桜並木の整備・活用 ☆桜まつり、イルミネーション、フリーマーケット、グルメイベント、婚活イベントの開催 ☆公民館を拠点とした世代間交流 ☆りんご並木・中央公園・大宮諏訪神社、神社、寺院が一体となった環境文化都市にふさわしい景観形成 ☆イベントへの女性の積極的な参加・企画 ☆子どもから高齢者まで支えあい、交流できる仕組みの構築

○中心市街地関係5地区、事業者、団体が共に取り組む事業

～地区の取組を支援し、リニア時代の丘のまちを様々な力が共に連携し、実現する事業の推進～

① 美しく、居心地の良い創造のまちづくり（空き家・空き店舗活用）

- 丘のまち暮らし連携推進事業（空き家バンク）
- 多様な住まいづくりと活用（子育て・高齢者向け住宅、シェアハウス、SOHO、都市型集合住宅）
- 交流人口の拡大（仕事場づくり、テレワーク・サテライトオフィスなど企業支援）

② 笑顔あふれる交流機会づくり（多世代交流）

- 性別、国籍を問わない多世代の参加、交流機会の創出
- 地産、特産の掘り起こし、マルシェなどの集客イベント
- 居場所づくり

③ 歩き、巡りたくなるまちづくり（回遊性創出・活用・整備）

- 緑と花と街の回遊性の創出・活用（桜並木、動物園、りんご並木、商店街）
- 歴史ある街並み・建築の保全活用（建築物、まち並み、裏界線）
- 丘のまちの歴史、文化、食を活かしたツーリズム
- 中心拠点と地域拠点、広域交通拠点を結ぶモビリティ、歩行者空間ネットワークづくり
- 飯田駅周辺のにぎわいづくり

これまでの中心市街地活性化の取り組みの総括

①第1期基本計画(平成20年7月～平成26年3月)

- 旧法から継続されてきた再開発事業等の完了
- りんご並木周辺の商業施設空間の整備や駐車場整備の完了
- 環境配慮型住宅ニーズの拡大

②第2期基本計画(平成26年4月～平成31年3月)

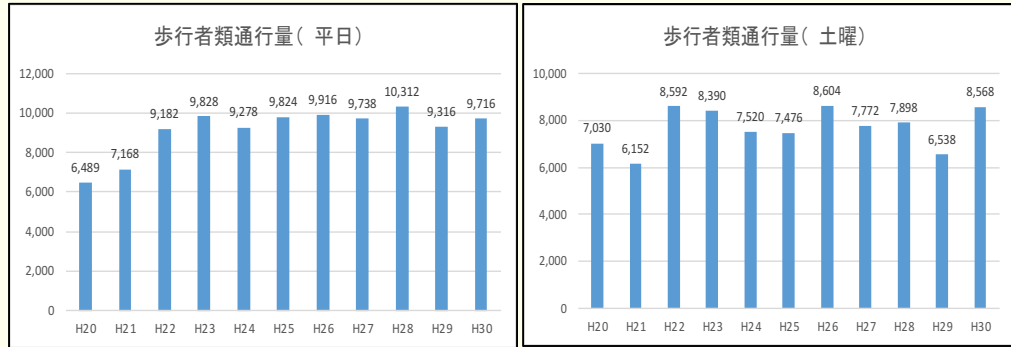
- 飯田動物園の改修とりんご並木周辺の整備完了における来街者の増加
- イベントの充実による まちの求心力の推進。りんご並木まちづくりネットワークを始めとする様々な担い手や助っ人の結集
- 中心市街地の商店や飲食店が共同事業を展開するなどの変化

③中心市街地における新たな変化

- 中心市街地関連地区による将来像づくりの検討(橋北、橋南)と、具体的な取り組みの動きが開始(羽場、丸山、東野)
- リニア長野県駅設置に向けた動きと拠点集約連携型都市構造における中心拠点の位置づけ。

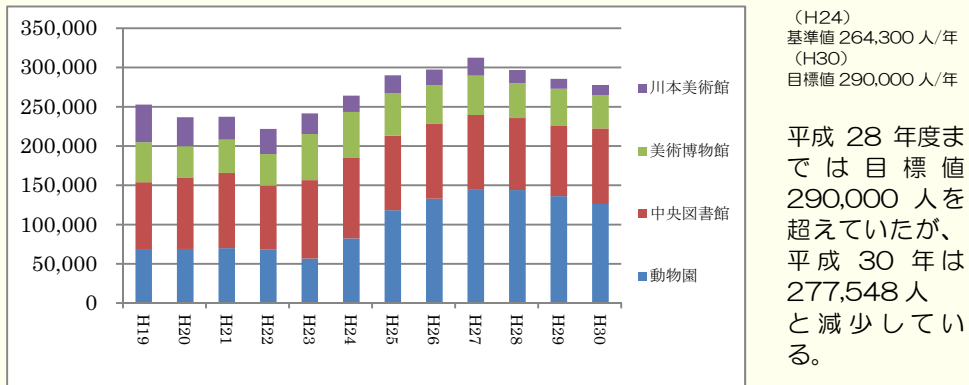
数値目標の達成状況

目標指標1: 歩行者・自転車通行量(平日・土曜日)

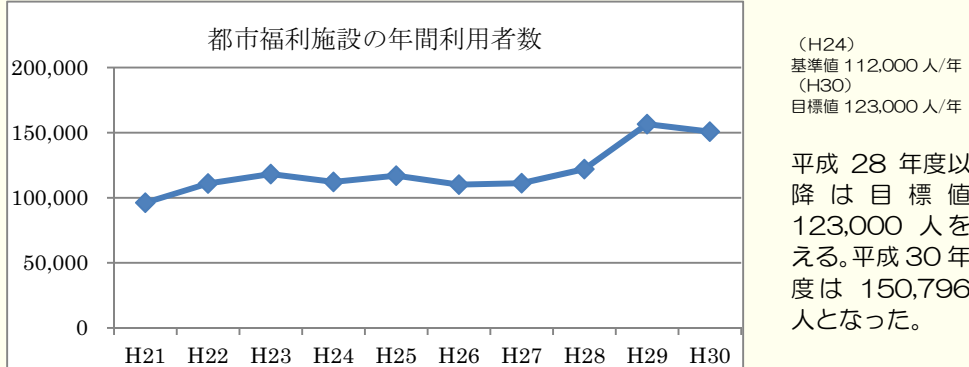


(平日) 平成28年は目標値10,300人を上回る結果となったが、30年は9,716人と減少した。
 (休日) 平成26年は目標値8,600人を上回る結果となったが、30年は8,568人と一歩届かず。

目標指標2: 文化・交流施設の利用者数(年間)



目標指標3: 都市福利施設の利用者数(年間)



中心市街地の現状

①市街地の人口減少、少子高齢化と地域力の衰退

・中心市街地の人口が年々減少しており、さらに世帯数までもが減少傾向となっている。また高齢化率も飯田市全体と比較してもかなり高い数値となっている。

②まちなか商店街の高齢化と衰退、魅力低下、新たな動き

・ピアゴの閉店もあり、中心市街地の商業活力は減少している。まちなかの商店街も店主の高齢化などにより空き店舗が増加しており衰退傾向となっている一方で、商店街や飲食店におけるまちなか回遊事業などの取り組みが生まれ、成長している。

③りんご並木・動物園等の利用者増加、多様で効果的な事業展開

・りんご並木周辺や動物園、文化・交流施設(中央図書館、飯田市公民館)の来街者や利用者が増加している。賑わいはまちなか全体までは至っていないが、多様な組織・団体が活動しており、年間通じた各種イベントには毎回多くの来街者が訪れている。

中心市街地の課題

①中心市街地関係地域の将来構想の実現

・本市では住民自治組織が主体となって、まちづくり方針である地区毎の将来構想をまとめている。中心市街地を構成する関係地区の将来構想を踏まえ、その実現に向けた実行が大事である。

②多様な都市ストックを活かした交流・関係・滞在人口の拡大

・2027年予定のリニア中央新幹線開通後に、大都市圏と近隣交流するであろう都市構造の変化を想定する中で、多様化し、高度化する消費・文化ニーズに対応したまちづくりの機能強化(南信州圏域の中心拠点としての求心力)を図ることで、交流人口・関係人口・滞在人口を拡大する必要がある。

③空き家・空き店舗を活用した賑わい・交流の拡大

・空き家や、空き店舗を活用した中心市街地の魅力向上を図る環境づくりが必要となっている。
 ○空き店舗を活用した多様な業種が創業できる環境づくり。
 ○空き家等を活用した第3の居場所(サードプレイス)づくり。

飯田丘のまちアクション

みんなの10年行動計画(2019～2028)

○中心市街地3地区の基本構想の将来イメージ

<p>〈橋北地区〉 誰もが安心して暮らせる 春草を生んだ歴史と文化の香り高い きらめくまち橋北</p>	<p>〈橋南地区〉 中心市街地・橋南は城下町の歴史や文化・りんご並木とともに生き続ける</p>	<p>〈東野地区〉 桜並木を大切に、歴史と文化を守る、人にやさしいまち・東野</p>
---	---	--

○地区の将来未構想からひろがる10年後(リニア時代)の「丘のまち」の姿

みんなで創る、みんなのステージ、丘のまち
 -集う・語り合う・表現する-
 飯田らしさをリニア時代に私たちが創っていく

○中心市街地関係5地区、事業者、団体がともに取り組む事業

- ①美しく、居心地の良い創造のまちづくり(空き家・空き店舗活用)
- ②笑顔溢れる交流機会づくり(多世代交流)
- ③歩き、巡りたくなるまちづくり(回遊性創出・活用・整備)

第3期飯田市中心市街地活性化基本計画

【テーマ】 飯田 美しき町
 魅力的な丘のまちの形成

～各地区基本構想による新たな地域からの未来づくりへの挑戦～

【計画期間】 2020年7月～2026年3月末 (5年9ヶ月)

【計画区域】 148.4ha 【推進事業】 27事業

中心(市街地)拠点の位置づけ(役割)

いいだ未来デザイン2028 (飯田市版総合戦略)

○戦略計画 基本目標2「飯田市へ人の流れをつくる」
 リニア中央新幹線長野県駅を見据えたまちづくりにおける、中心拠点としての中心市街地の魅力づくりを推進

いいだ山里街づくり推進計画(飯田市版立地適正化計画) ※調整中

○中心拠点(中心市街地)の都市機能集積を維持活用し、機能のブラッシュアップにより求心力を向上

リニア将来ビジョン戦略的地域づくり

- 田園型の学術研究都市づくり
- 自動運転システムを活用した2次交通システムの検討

豊かなまちの暮らしの実現

2027

社会経済動向
 (中心市街地活性化のプラス効果を生み出す動き)

- リニアの開通
- 三遠南信開通

期待される交流人口の増加

全市民のための拠点づくり

「飯田 美しき町」
 <基本理念> 魅力的な丘のまちの形成

リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の全通がもたらす大交流時代。引き続き人口減少、少子化、高齢化を見据えつつ、**各地区基本構想による新たな地域からの未来づくりへの挑戦**を契機に、これまで築き上げられた中心市街地（中心拠点）が持つ「資源や環境」の一つ一つに磨きをかけるランドスケープデザインの視点により、美しく、居心地の良い暮らしと交流・学びの空間の実現に向けて、地区、関係機関の共創力を発揮しながら、取り組んで行く。

基本的な方針

1
 様々な世代で賑わう丘のまちの形成

2
 多様な主体の連携と共創による中心拠点の魅力づくり

3
 リニア時代に向けた個性が光る都市機能の磨き上げ

4
 美しいまち、居心地の良い暮らしが息づくまちづくり

中心市街地の活性化の目標

丘のまちの資源を活かした、居場所・交流空間づくり

空き家や空き店舗を活用した魅力向上を図る環境づくりが必要となっている。**多様な業種が創業できる環境づくり**や、内外の人の居場所づくりを推進することで、まちの賑わいや交流の拡大を目指す。

内外の人の居場所：コミュニティにおいて、自宅や職場とは隔離された心地よい居場所

歩き、巡りたくなる 都市空間・回遊性の向上

リニア中央新幹線の開通後に、大都市圏と近隣交流するであろう都市構造の変化を想定するなかで、南信州圏域の中心拠点でもある、飯田の中心市街地の個性（**春草通り、りんご並木、桜並木**）を活かす魅力づくりや、まちの機能を共創の力で磨き上げる必要がある。

～誰もが集い、出会い、語り合い、繋がる～

中心市街地（拠点）だからこそできるチャレンジの場 = **笑顔あふれる創造のステージづくり**の推進により交流人口・関係人口・滞留人口の拡大を目指す。

(イメージ図)

- 地区の個性光る既存ストックを活かす取り組みを、事業者・団体が連携し支援（交流・関係づくり）
- 地区、商店街、飲食店、文化施設等の連携によるまちなかの滞留づくりの促進

美しく、居心地の良い暮らしの創造

中心市街地では人口・世帯数の減少と少子高齢化が止まらず、幅広い世代ニーズに対応した都市サービス事業の推進が必要とされる。「資源や環境を見つめなおす」「人を育てる」ことを通じて、**暮らしの豊かな感性が育つまち**を目指す。

目標指数・目標値

新規出店数又は営業店舗数

項目	値
基準値 (年度)	計測中
目標値 (R7年度)	計測中

※目標指数及び計測値は検討中
 歩行者・自転車通行量(休日)

項目	値
基準値 (H30年度)	8,500
目標値 (R7年度)	計測中

※毎年10月に行う歩行者・自転車通行量調査に基づく〇ヶ所の歩行者・自転車通行量の合計(土曜日:人/日)
 官民の連携数(年間)

項目	値
基準値 (H30年度)	22
目標値 (R7年度)	47

※推進事業において官民が連携した年間の総数
 文化・交流施設利用者数(年間)

項目	値
基準値 (H30年度)	284,000
目標値 (R7年度)	計測中

※川本人形美術館、飯田美術博物館、飯田市中央図書館、飯田市立動物園、エコハウス、旧飯田測候所、丘のまち交流サロンの年間利用者数
 都市福利施設利用者数(年間)

項目	値
基準値 (H30年度)	209,000
目標値 (R7年度)	計測中

※飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、りんご庁舎、カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン丘の上、おしゃべりサラダの年間利用者数

認定基本計画で推進する事業(27事業)

区分	推進事業の名称	実施主体
丘のまちのデザイン	1.桜並木整備事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.春草通り活用事業	
	3.まちのデザイン研究事業	
	4.駅周辺等低未利用地活用研究事業	
丘のまちの居場所・交流空間づくり	1.多世代交流拠点事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.丘のまち情報交流サロン事業	
	3.高校生と丘のまちを繋ぐ事業	
	4.飯田市こども家庭応援センター	
	5.健康福祉拠点活用事業	
	6.ライフスタイルの低炭素化事業	
丘のまちの暮らしの創造	1.地区空き家バンク連携事業	まちづくり委員会 民間事業者 団体等 飯田市
	2.セカンドオフィス、セカンドハウス等誘導事業	
	3.都市型集合住宅の研究	
丘のまちの新たな価値創造、まちの元気づくり	1.桜並木活用事業	まちづくり委員会 民間事業者 団体等 飯田市
	2.緑と花のネットワークづくり事業	
	3.橋北まるごと博物館事業	
	4.りんご並木活性化推進事業	
	5.地産・地消促進事業	
	6.まちなか起業推進事業	
	7.地域ブランド発信事業	
	8.ソサエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業	
	9.丘のまち回遊促進事業	
	10.交流人口・関係人口増大支援事業	
	11.まちなか MICE 推進事業	
	12.商業的・文化的イベント事業	
丘のまちの歩き、巡りたくなる交通・社会基盤づくり	1.丘のまちミュージアム活用事業	まちづくり委員会 民間事業者 飯田市
	2.環境にやさしい交通社会形成事業	